

【選択】英語指導法ブラッシュアップ

◆ 講習の目標

この講習は、英語指導に関する各分野の知識・技能を提供し、中学校・高校での英語の授業のレベルアップを目指します。講習は、7回のワークショップ(90分)とまとめから成り、最後のまとめで、講習内容についての討議と試験を行います。

科目区分	選択	受講定員	30人（最少開講人数 6人）
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象	中・高教諭（英語）
受講料	12,000円	履修認定時間数	12時間
開講日	7月28日（土）、7月29日（日）		
開講場所	麗澤大学 校舎あすなろ 2406教室		
担当講師名	望月正道、森秀夫、Paul Chris McVay、Andrew Nicolai Struc		
時間割	<p>7月28日（土）</p> <p>8:20～8:50 受付</p> <p>9:00～10:30 ワークショップ ①英語による英語の授業 森 秀夫</p> <p>10:45～12:15 ワークショップ ②語彙指導 望月正道</p> <p>13:30～15:00 ワークショップ ③発音指導 Paul Chris McVay</p> <p>15:15～16:45 ワークショップ ④スピーキング指導 Paul Chris McVay</p> <p>7月29日（日）</p> <p>8:20～8:50 受付</p> <p>9:00～10:30 ワークショップ ⑤リーディング指導 Andrew Nicolai Struc</p> <p>10:45～12:15 ワークショップ ⑥ライティング指導 Andrew Nicolai Struc</p> <p>13:30～15:00 ワークショップ ⑦リスニング指導 望月正道</p> <p>15:15～16:00 まとめ 望月正道</p> <p>16:00～16:45 修了認定試験</p> <p>16:45～17:00 事後評価アンケートの記入</p>		
試験方法	筆記試験（2日目講義の終りに修了認定試験を実施する）		
評価基準	試験の結果により合否を決定する。100点満点で評価、60点以上を合格とする。		
認定番号	平 30-30136-506852 号		

“4階”に変更となります。

◆ 各講義の内容(全 12 時間)

(1) ワークショップ ① 英語による英語の授業 担当：森 秀夫 (90分)

このワークショップでは、学習指導要領の「授業は英語で行うことを基本とする」という文言を実行するときの考え方とそのような授業の作り方について考えます。実際の高校の英語教科書を元に、4技能を英語でどう教えるかについて意見の交換を行います。

(2) ワークショップ ② 語彙指導 担当：望月正道 (90分)

このワークショップでは、英語教育で常識と考えられている語彙指導のありかたを再検討します。たとえば、新語を教える際に同意語や反意語と一緒に教えることがよいとされています。しかし、第二言語習得の研究は、そうしないほうがよいことを示唆するものがあります。効果的な語彙学習を促す指導法を考えていきます。

(3) ワークショップ ③ 発音指導 担当：Paul Chris McVay (90分)

このワークショップは、英語教育の目的を考えることから始め、その目的を達成するため

に発音やイントネーションの役割について考察します。発音指導については、個々の音素の指導よりも自然なリズムやイントネーションを教えることに主眼を置くべきであると提案します。したがって、単調なドリルや繰り返しではなく、生徒の発音のコミュニケーションにおける価値を高める工夫に焦点を置きます。イントネーションはコミュニケーション的価値に関して主要な役割を果たします。それは文字どおり言語の心だからです。私たちが気持ちや真の意味を伝えるのはイントネーションによるものであることをみていきます。重要なのは、何を言うかではなくて、どう言うかなのです。ワークショップは口頭練習を多用する双方向的なものです。

(4) ワークショップ④ スピーキング指導 担当：Paul Chris McVay (90分)

このワークショップでは、英会話での気持ちの重要性を強調します。言葉には、文法、統語、語彙、発音という重要な要素がありますが、おそらく最も無視されて、十分な評価がなされていない要素は気持ちでしょう。他のすべての要素が習得されたとしても、話すときに気持ちが入っていなければ、その言葉は不自然に聞こえ、結局のところ意味が伝わりません。気持ちはコミュニケーションに必要な不可欠のもので、当然英語を話すことを教える上で重要な役割を果たします。このワークショップでは、生徒の英語をより自然にして、英語学習をもっと面白く楽しいものにする簡単な方法を紹介します。同時に、文法は気持ちと切り離せない関係にあることも論じます。

(5) ワークショップ⑤ リーディング指導 担当：Andrew Nicolai Struc (90分)

このワークショップは、中学校・高校で長めの英語のテキストを読ませる際に生徒がさまざまなスキルやストラテジーを使えるようにすることに焦点を当てます。プレリーディング、リーディング、語彙、テキスト構造の理解、リーディング後の振り返りという分野でさまざまなスキルやストラテジーを検討します。読解用のサンプルテキストを使い、タスクや活動を通してこれらのストラテジーをどのように発展させられるかを考えます。このタスクや活動は、生徒が方略的にテキストを読むことができるように意図されたものです。さまざまなストラテジーを伸ばす方法やタスクを参加者どうしで共有します。

(6) ワークショップ⑥ ライティング指導 担当：Andrew Nicolai Struc (90分)

このワークショップでは、ライティング指導の基本的理論を解説するとともに、初級レベルの授業で使えるライティングの指導例を紹介します。とくに、学習者がライティングに対して不安を持たず、書きたくなり、自信が持てるように支援する方法について吟味します。次に、学習者がライティングに備えさせる方法について検討します。ライティングにおいて正確さと流暢さを伸ばす2つの目標とそれ伸ばすタスクについて考えます。さらに、学習者にフィードバックを与えるときに重要な要因について考えます。最後に、作文のタスクに含めることができるさまざまなジャンルや種類について考察します。これらのテーマを扱う中で、参加者はそれぞれの教育現場で応用できるアイデアについて実践し議論する機会を設けます。

(7) ワークショップ ⑦ リスニング指導

担当：望月正道（90分）

このワークショップでは、英語のリスニング活動を効果的に行うための指導方法について考察します。いくつかのリスニング活動を実際に体験してもらいます。そのあと、それぞれの活動が狙いとしているものを考えます。単語レベル、語句レベル、文レベル、談話レベルといった学習者のレベルに合ったリスニング活動を考えていきます。最終的に、リスニングの理論に基づいた効果的なリスニング指導の実践について議論します。

(8) まとめと試験

担当：望月正道（90分）

ワークショップ①から⑦までの講習内容の確認をします。それぞれのワークショップのまとめについて、その解答について各自考えてもらいます。つぎにグループに分かれて、それぞれのワークショップの内容が実際の授業でどのように活用できるかを議論してもらいます。グループごとに議論の成果を発表します。

最後に、試験として、4択の問題を配布しますので、解答をマークシートに記入していただきます。

HB の鉛筆と消しゴムをご用意ください。

評価は、試験の結果により行います。

◆ **講師のプロフィール**

望月 正道	麗澤大学 外国語学部 教授	専門分野：英語教育
森 秀夫	麗澤大学 外国語学部 教授	専門分野：英語教育
Paul C. McVay	麗澤大学 外国語学部 特任教授	専門分野：英語教育
Andrew Nicolai Struc	麗澤大学 外国語学部 准教授	専門分野：英語教育